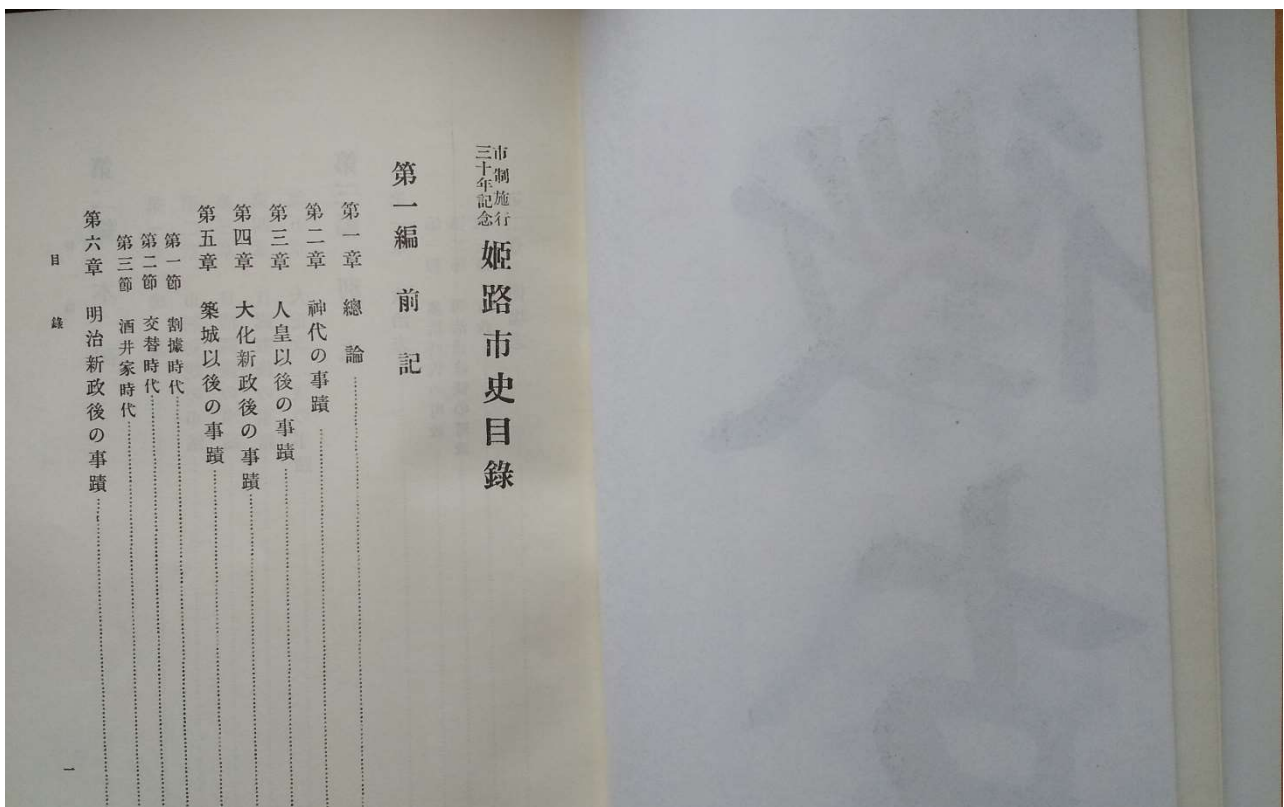


図書館の蔵書から

「090（郷土資料）」を見ていたら、大正時代の「姫路市史」が出て来ました。1945年（昭和20年）7月には姫路空襲で校舎の大半を焼失、また、1970年（昭和45年）12月には原因不明の火災により、再度、校舎の大半を焼失しているのに、これは大発見だ、と驚きました。しかし、よくよく見ると、1978年（昭和53年）に発行された復刻版でした。それでも本校においては古い図書ですね。

本校は二度の校舎焼失の歴史がありますが、郷土資料にある「姫路空襲の記録 第2集」（1989年12月出版）を見ると、1945年（昭和20年）4月に鷺城中学校（姫路高校の前身）に入学した方の体験談が記載されています。『校舎は、今の姫路動物園の西の丘の上にありました。建物はコの字型の三棟があり、教員室だけ別棟となっていました。三棟の校舎の半分以上を、陸軍の兵隊が使用していました。それと云うのも、学校で授業をしているのは一年生のみ、二年生になると週の半分位、工場へ学徒動員、三、四年生は、ずっと工場へと云う状況でした。（中略）七月三日、暑い夜でした。母に寝るように云われる頃、空襲警報があり、一家で裏の土手へ逃げ上がりました。上空はB29の爆音、あっという間に、城の南西に一発の照明弾。城があざやかにうかび上ったのも一瞬、ゴーッという音と共に各所に炎が上がり猛煙、城も見えなくなりました。（中略）鷺城中学二年生の方が私の家に寄ってきて「学校で夜の当番をしていたが、校舎全焼、お城にも弾が落ちて松の木が燃えたが、お城は残った」と言われた。城を残すために照明弾を落として、爆撃したんだなと思いました。（以下略）』

80年の歴史、過去を経て現在があります。そして皆さんの現在が未来に繋がっていくのですね。今が大切！





姫

路

空

襲

の

記

録

第2集

姫路空襲を語りつぐ会・編

